

**市民活動のご案内**

最後に、在住外国人の支援や交流活動を行う市民団体を紹介します。市民はすでに、課題と向き合い、将来の展開を見据えていました。各団体とも、活動を支えるスタッフを募集しています。詳しくは、各代表までお問い合わせください。



**Azuminoハートネットワーク**  
 場所・穂高会館  
 問 代表・丸山 美枝さん  
 (TEL090・1869・9547)

日本語教室 **無料**

毎週日曜日 午後7時～9時

文化教室

《リズム&ダンス》 **無料**

毎週日曜日 午後7時30分～9時

《書道》 **無料**

第1日曜日 午後7時～9時

《着付け》 **無料**

第3日曜日 午後7時～9時



**豊科日本語教室**

場所・豊科ささえあいセンター

問 代表・佐藤タカエさん  
 (TEL72・4376)

毎週日曜日 午前10時～正午

**1回100円**



**三郷日本語教室**

場所・三郷公民館

問 代表・津村 孝夫さん  
 (TEL080・1050・3131)

毎週土曜日 **無料**

午後7時30分～午後9時30分



**少子高齢化と外国人労働者**

外国人労働者の受け入れを拡大するか否か——。そんな議論が国や経済界で活発になっています。

その背景には、少子高齢化などで働き手が減ることへの危機感があります。2030年、日本の労働力人口は現在より1,000万人減り、女性や高齢者が現在より働くようになって500万人減ると国は試算しています。

**国の基本的な考え方**

日本は、いわゆる単純労働者など「専門的、技術的分野と評価されない労働者」の受け入れには、慎重な姿勢をとっています。

しかし、就労に制限のない日系人や開発途上国への技術移転のため就労できる「研修・技能実習生」は、合法的にこれらの分野で働いているなど、実態とは大きな隔たりがあります。

今年9月、法務省のプロジェクトチームは、こうした問題を受けて「今後の外国人の受け入れに関する基本的な考え方」を取りまとめました。

この案では、新たに「特定技能労働者」という分類を示しました。これは、「専門的、技術的と評価さ

を進めていった場合、受け入れられた外国人、そして、隣人として迎えることになる地域社会の双方にとって不幸な結果をもたらしかねません。内では人口減少、外ではグローバル化が進展する中で、国全体の問題として、そして、地域社会の問題として、異文化との共生を真剣に考える時期にきています。小さな地方都市・安曇野が経験した「内なる国際化」は、今後、多くの都市でも重要な課題になりそうです。

れない」としてきた労働者を、条件付きで受け入れようというものです。その条件とは、「一定の日本語能力」や「入国当初から雇用契約」があることなどです。

また、日系人の受け入れと研修・技能実習制度は見直され、原則、この制度に一本化することを想定しています。そして、すでに滞在している日系人は、日本語教育の施策を実現することを前提に、一定の要件を課すことが検討されています。

**地域社会の問題でもある**

これらの問題は、国政だけの問題ではありません。外国人労働者が実際に生活するのは、地域社会です。

90年の入管法改正で、地方に外国人労働者が急増した時期、国と地方の連携は必ずしも良好ではありませんでした。

住民に直結するサービスを担う自治体は当時、急増した外国人労働者に十分な対応ができないことが多く、情報不足やコミュニケーション不足から、住民とのあつれきが生まれた地域もありました。

お互いの理解もなく、生活環境も整備されていないまま、安易に受け入れ

**「同化」でなく「融和」**

私たちのまちは、異なる者同士が交じり合い、地域を構成しています。違いを認め、それを否定しないこと——。そして、その上で融和し合い、それぞれが積極的に社会に参加できれば理想的です。しかし、私たちのほとんどが無知から誤解や偏見を抱いてしまうのが現状です。まずは、お互いの理解を深める根気が必要となります。今はその道程にあります。

**地域の「国際化」はどこまで進むか。**

